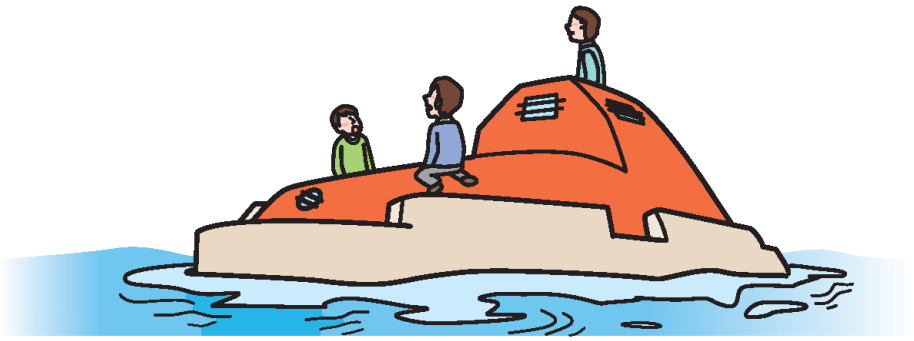
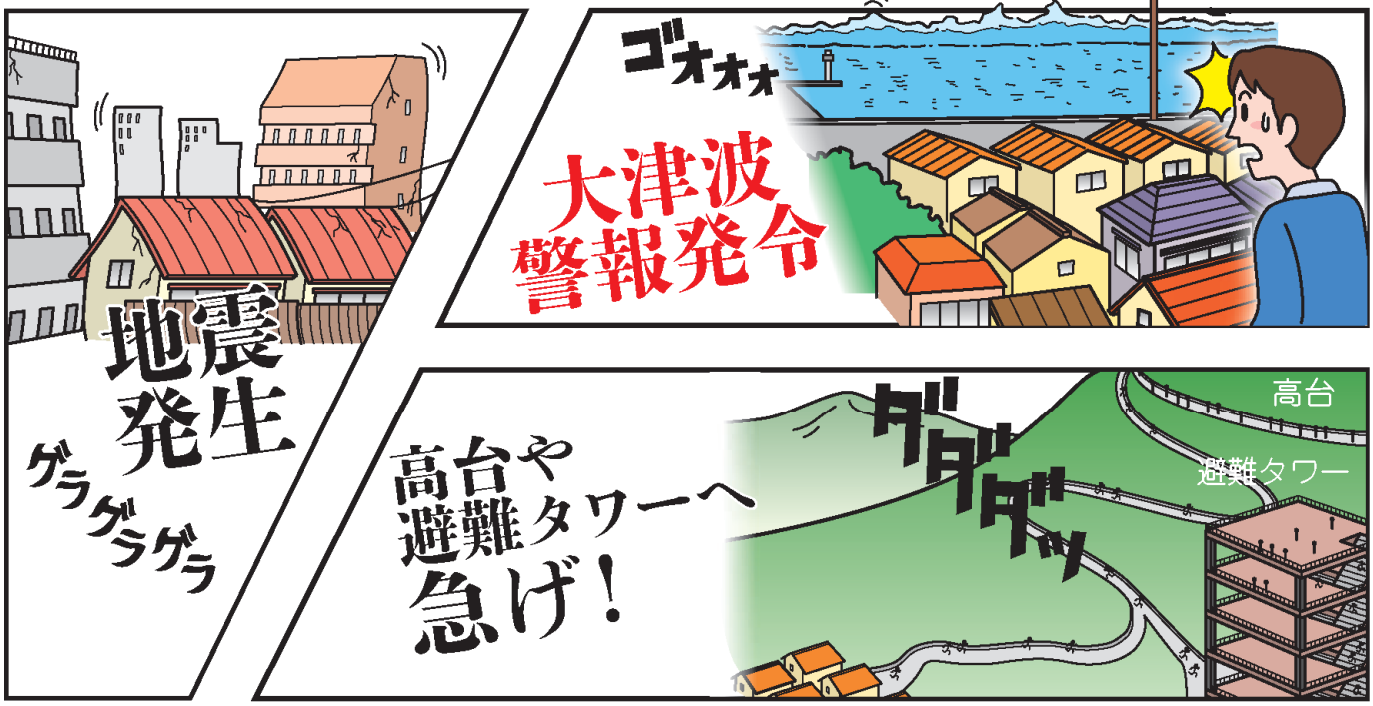
写真撮影·海上保安庁

浮いて生き延びる

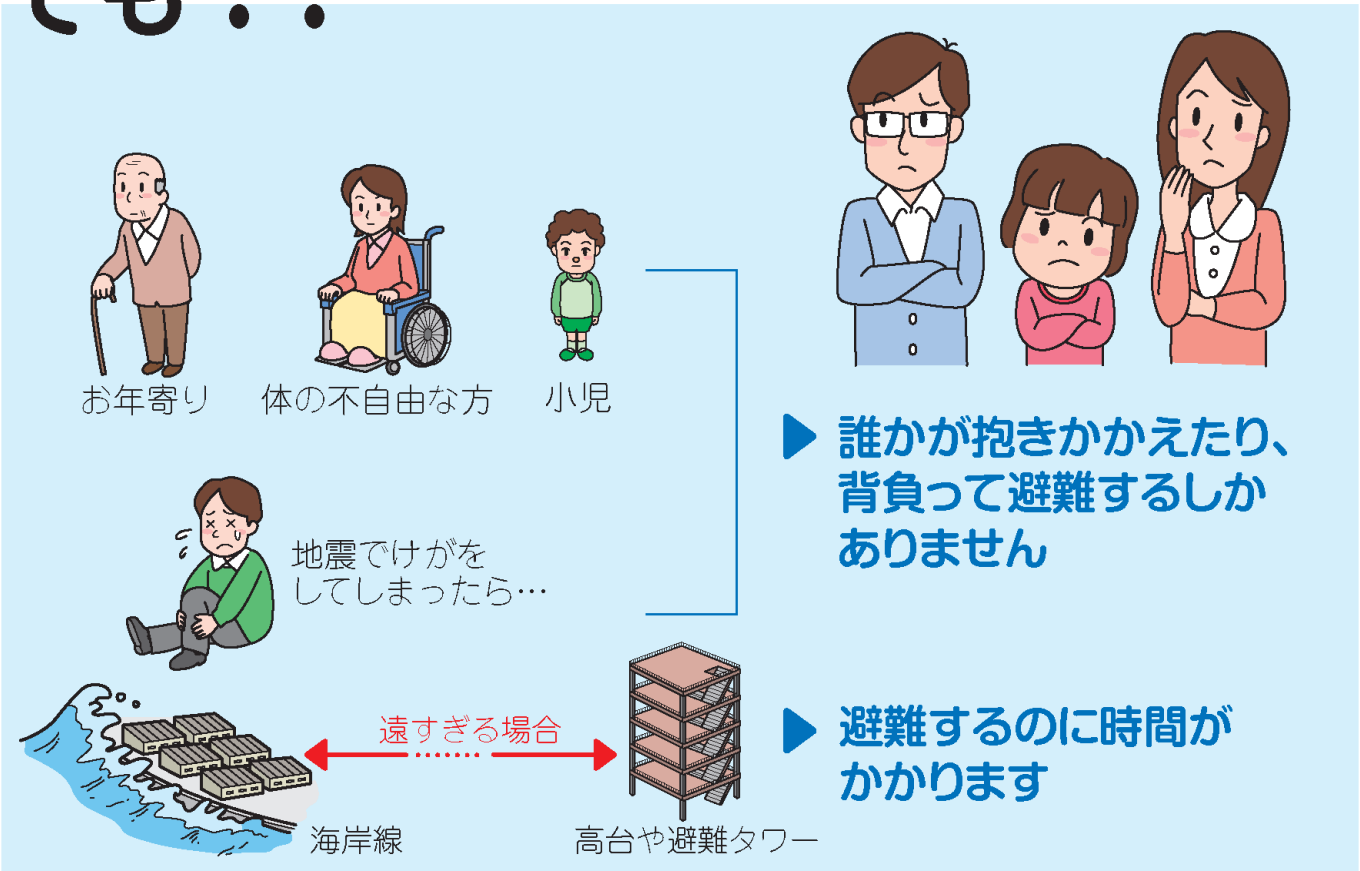
津波救命艇（つなみきゅうめいてい）

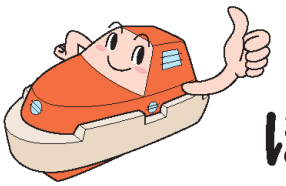


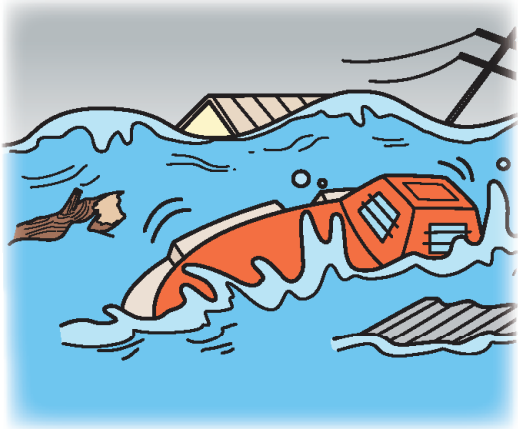
大津波が襲ってきたら!!



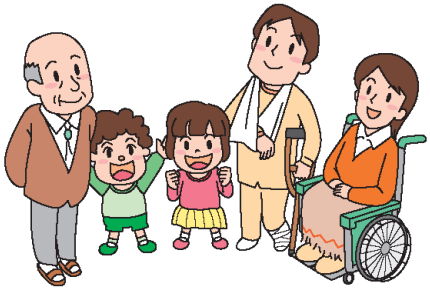
でも?!



そこで！  ぼくの出番です



家や職場、学校などの近くに津波救命艇（つなみきゅうめいてい）
これに乗って命を守ろう！



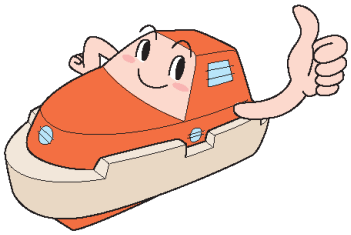
津波が引き始めたら地面に着地

はじめに**津波救命艇**は内陸部に流され、津波が引くと着地して陸に残ります。海に流されそうなときは、おしりについている錨（アンカー）を降ろして、沖合に流れ出るのを抑えます。

もし、海に流れ出てしまったら？

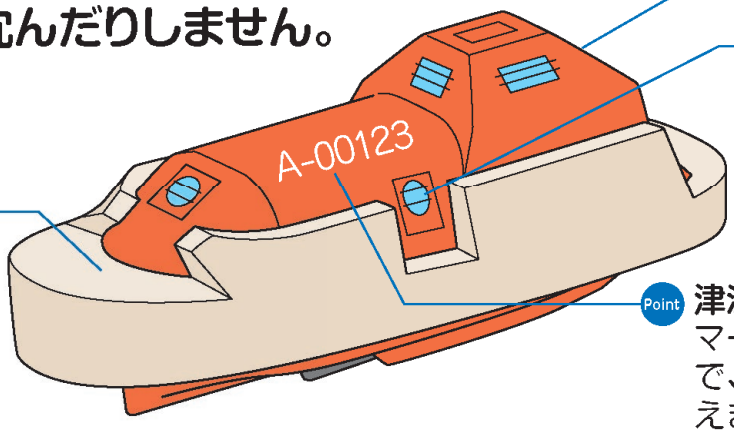
津波救命艇は、目立つ色彩等に施されており、どこからでも容易に発見されるデザインで造られています。また、艇体はどんなに海が荒れてもこわれたり、沈んだりしません。海上保安庁や自衛隊などが責任を持って救助してくれるので、安心して**津波救命艇**の中で待っていてください。

津波救命艇って どんなもの？



津波救命艇の外形図（全体図）

大人25人は座れます。
さらに空いているスペースに人が
乗り込んでも沈んだりしません。



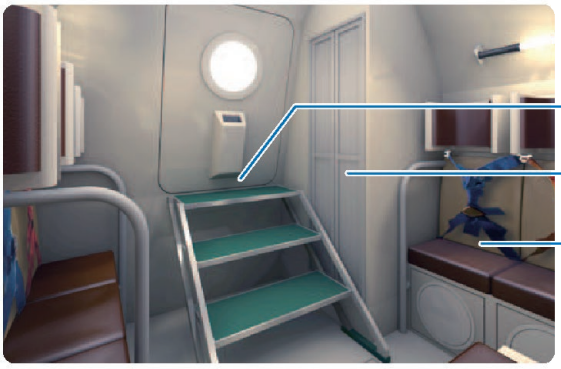
Point 広い出入り口

Point 強化窓

Point 激しい衝撃から中の人を守る厚いクッション材

Point **津波救命艇**は１つ１つにマーキングされているので、救助がスムーズに行えます。

津波救命艇の内部（内装）



Point 壁は頑丈な構造になっているので、万一、他の物とぶつかって**津波救命艇**の外側の壁が傷ついても、浸水の心配はありません。
また、側面にとがったものが突き刺さっても中の人がケガをしないよう、座席の後ろには非常に硬い材料でできた板が入っています。

Point 貯蔵庫には水や食料が7日分以上、常備されています。この他、医薬品や衛生用品、防寒シート、予備の乾電池、充電器など、様々な生存キットが備えられています。

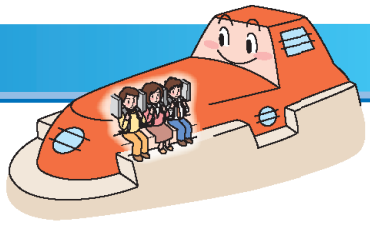
Point 広い出入り口

Point 個室トイレ

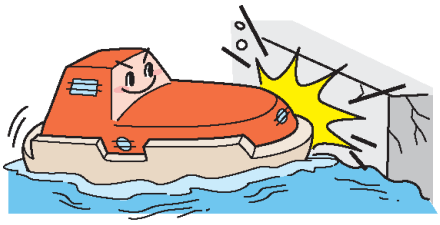
Point 津波にもまれて激しく揺れても中の人がケガをしないよう、シートベルト、ヘッドレスト、弾力性の高い座席シートを採用しています。

こわれない、沈まない、転覆してもすぐにもとに戻るすぐれものです

津波救命艇の特長

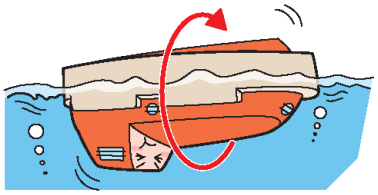


壁に激突しても



津波の濁流に乗って建物に衝突しても、大きなガレキがぶつかっても大丈夫！中の人を守ります。(東日本大震災での最速クラスの津波を想定して設計されています)

ひっくり返っても



万一、ひっくり返っても、すぐに戻ります。
中の人もシートベルトで安心です。

割れ目から水が たくさん入っても

どんなに水が入ってきても、厚い壁には発泡スチロールのような充填剤がぎっしり詰まっているので沈みません。

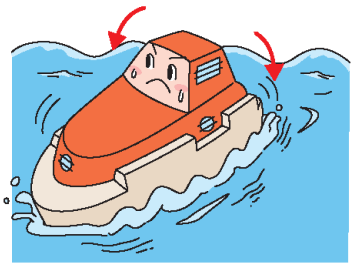
ちかくで火災がおきても

艇体は燃えにくい材料でできていて、洋上で燃えている浮遊物と接触しても燃え移りません。

漂流中に倒壊してきた がれきの下敷きになっても

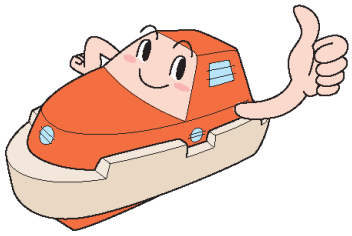
浮き上がる力が非常に大きいので、そのまま水中に押さえつけられたまま、ということはありません。

でも、やっぱり揺れるよ

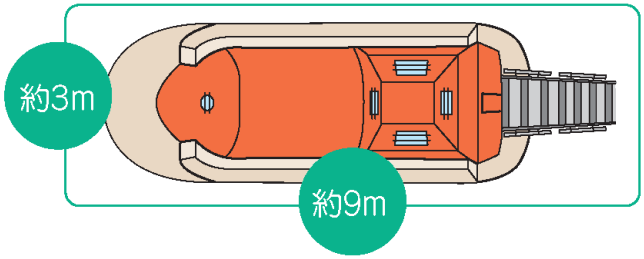


最新の造船技術を活用して、できるだけ揺れない工夫はしているけれど、生き延びるためには仕方がない。ちょっとがまん！(中には船酔い防止の薬もあります)

津波救命艇の使い方

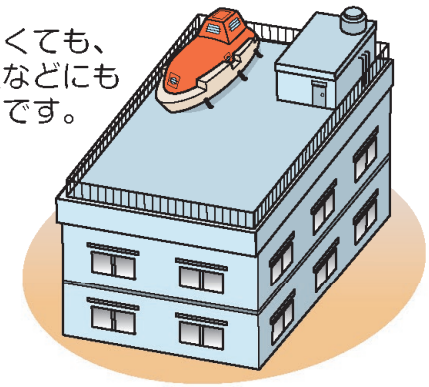


津波救命艇の設置場所　どんな所に置けるの？



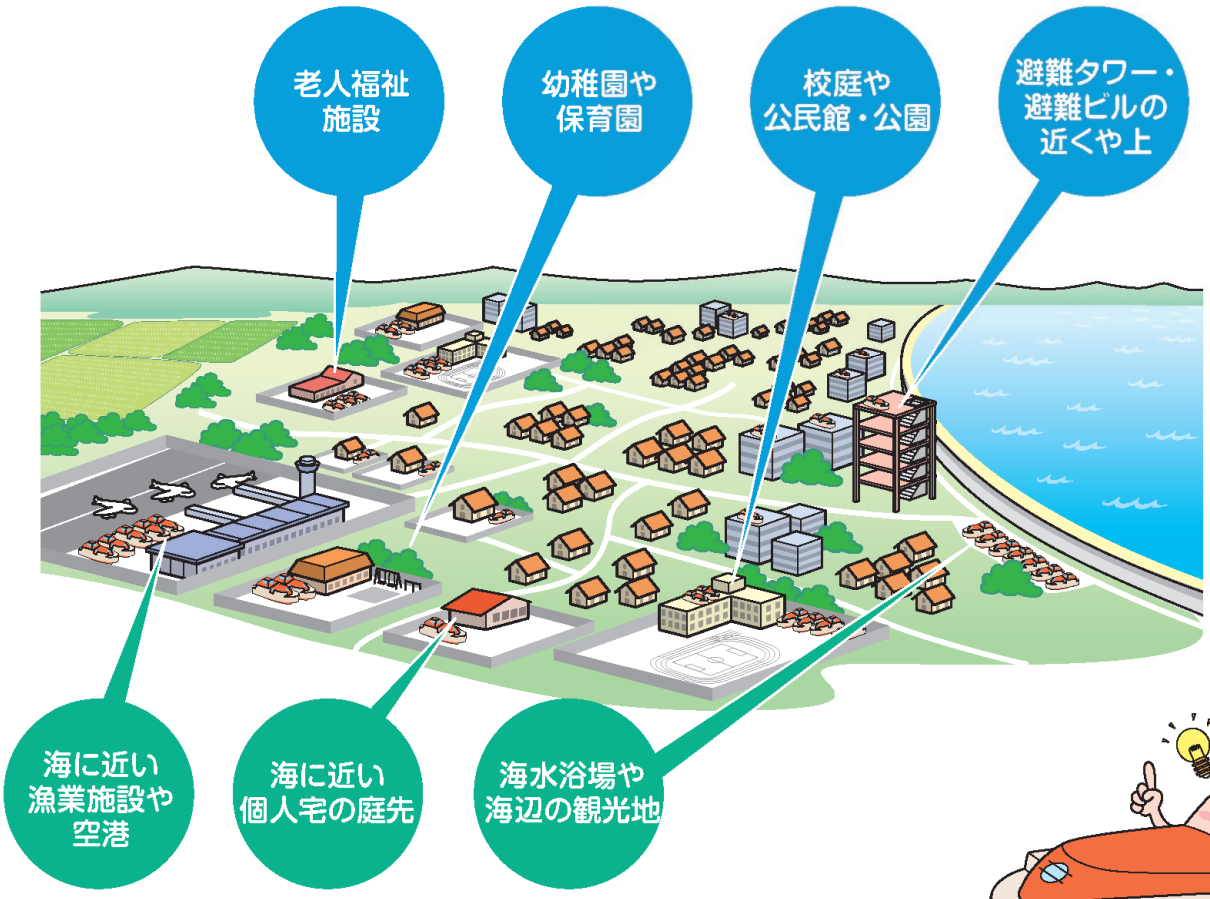
このスペースがあれば、設置可能です。
だから、大がかりな基礎工事も不要です。

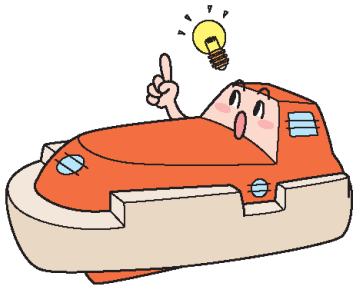
平地が無くても、
ビル屋上などにも
設置可能です。



移動も増設もカンタン！

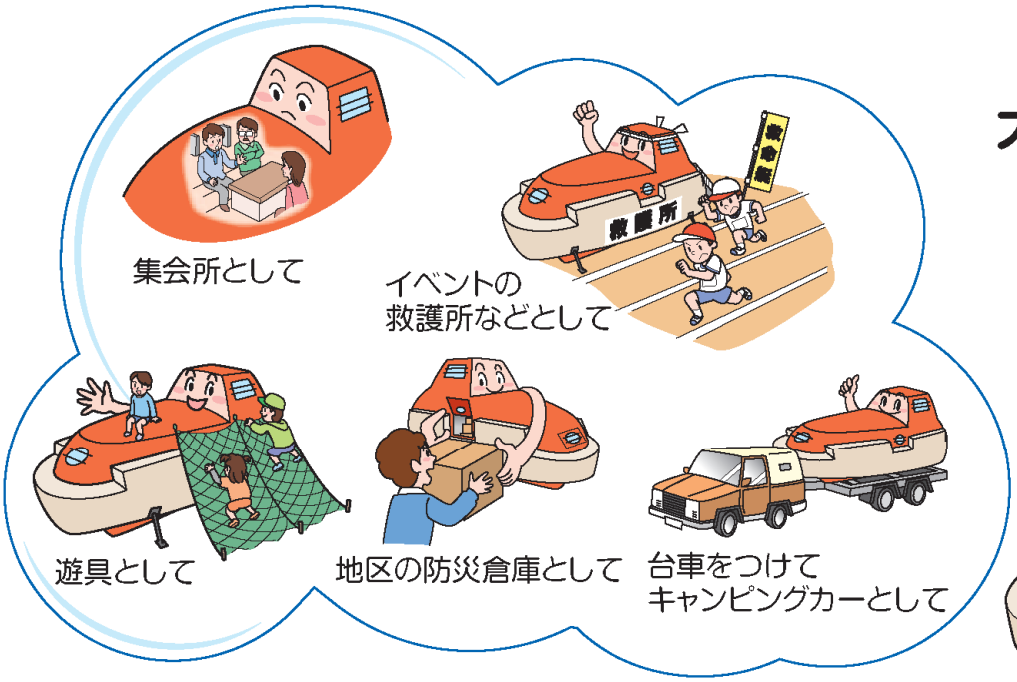
津波救命艇の設置例





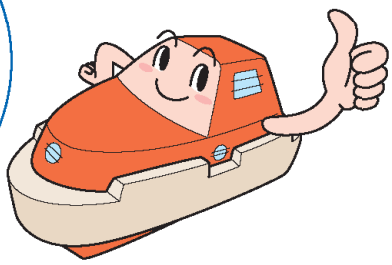
その他　コンビニエンスストア　駐車場等
いろいろ考えられます

普段はこんな使い方もできます

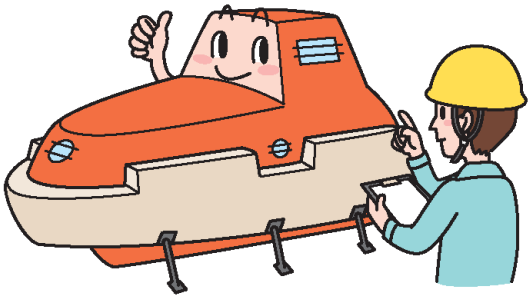


大津波の時こそ出番ですが

津波の後も
医療拠点などとして
復旧活動にも
役立つよ！



訓練と維持管理も忘れずに

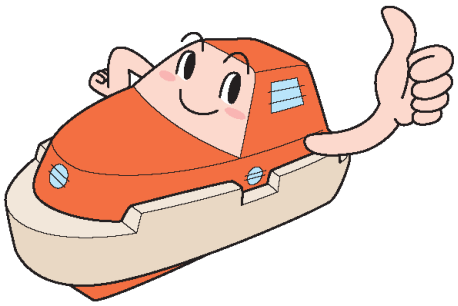


いつ来るかわからない津波に備えて、**津波救命艇**を活用した防災訓練も行って設備の健全性や使い方を確認することも大切です。

まとめ ～津波救命艇のできること～

➢津波高さに関係なく避難できる	☞	想定外の高さの津波にも対応
➢職場や住居に近接して設置できる	☞	負傷者、病人、老人等の避難弱者も容易に避難可能
➢港湾や海岸線付近にも設置できる	☞	自治体や消防団員等、救助する側の者の最後の避難手段の確保
➢一旦設置された後も、移動や増設等が容易にできる	☞	変化する避難ニーズに対応可能
➢書類やデータディバイス等の物品も艇内に搬入できる	☞	災害後のBCP（Business Continuity Planning）に有効
➢十分な水や食糧を貯蔵できる（７日分以上）	☞	洋上で漂流することになっても安全が確保（**津波救命艇**は多くの場合、津波とともに陸上側に押し流され、そこで座礁したように着地すると想定されている）
➢災害対策支援の一助として寄与できる	☞	CSR（Corporate Social Responsibility）活動の一環として活用

津波救命艇ガイドライン（国土交通省）



◆**津波救命艇**が満たすべき機能要件や維持・管理方法等が「津波救命艇ガイドライン」（国土交通省）で定められています。

◆ガイドラインでは、**津波救命艇**が機能要件を満たしていることを第三者機関により評価を受けることが推奨されています。

◆第三者機関の評価を受けた**津波救命艇**や設置された**津波救命艇**に関する情報が、国土交通省のホームページで公表されています。

【ガイドラインを満足する　津波救命艇の一部】

（出典:株式会社IHIのHPより）

（出典:株式会社信貴造船所のHPより）

（出典:ツネイシクラフト&ファシリティーズ株式会社のHPより）

津波救命艇の普及を進める会

事務局：一般財団法人 日本舶用品検定協会内
〒102-0094　東京都千代田区紀尾井町3番32号
TEL：03-3261-6611　FAX：03-3261-6979

※本冊子は国土交通省四国運輸局等の資料に基づき作成しています。